

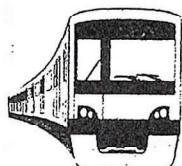
【回看】

町田小山

令和5年7月

第53号

小田急多摩線延伸促進協議会ニュース



小山町第一区連合町内会

会長 小峰 政行

町田小山 小田急多摩線延伸促進協議会
会長 杉山 利昌

令和5年度定期総会は新型コロナウイルス感染防止等の観点から前年度と同様に書面議決と致しました。採決結果すべての議案が可決されました。なお、本年度役員は別紙の通りです。

- | | |
|-----|----------------------|
| □議案 | ・第1号議案 令和4年度 活動報告 |
| | ・第2号議案 令和4年度 会計報告 |
| | ・第3号議案 令和5年度 活動計画(案) |
| | ・第4号議案 令和5年度 予算(案) |
| | ・第5号議案 令和5年度 役員(案) |

□開催日(書面議決日) 令和5年6月4日(日)

□小田急多摩線延伸の沿革

【1975年4月】新百合ヶ丘駅～多摩センター駅開業
【1990年3月】多摩センター駅～唐木田駅開業
【2000年1月】運輸政策審議会答申第18号
横浜線・相模線方面への延伸、今後検討すべき路線(B)

*検討駅…5駅(町田2駅、相模原3駅)

【2006年5月】相模原総合補給廠の一部約15haの他鉄道および道路用地として2haの返還が基本合意

【2014年9月】相模原総合補給廠の一部が日本に正式返還

<道路整備>

- ・2017年4月南北道路開通、町田街道と直結
- ・2018年3月東西道路完成、南北道路と連結

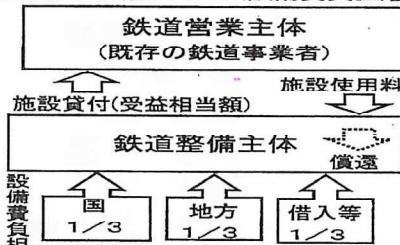
【2016年4月】交通政策審議会答申
「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」に選定

*駅は3駅(町田1駅、相模原2駅(相模原駅、上溝駅の結節駅)。町田1駅は小山田バス折り返し所付近を想定。小山地区内の駅設置については3駅整備後のまちづくりの動向や需要動向を踏まえた将来の検討課題

【2016年8月～2019年3月】小田急多摩線延伸に関する関係者会議
(課題の解決を図る目的で調査検討)

□延伸の事業手法【都市鉄道利便増進事業】

【設備の支援スキーム(設備費負担)】



【事業採算性の確保】

収支採算性

・30年以内の黒字転換必要

□小田急多摩線延伸に関する関係者会議

報告(課題の解決を図る目的で調査検討)

◇2019年5月小田急多摩線延伸に関する関係者会議報告(想定:着工2026年、開業2033年)

○予測ケース(一括整備)

唐木田～上溝(8.8km)

・概算建設費 1,300億円

・収支採算性 40年(*注1)

*注1 収支採算性否(30年超)

○予測ケース(段階整備)

第1期 唐木田～相模原(5.8Km)

・概算建設費 870億円

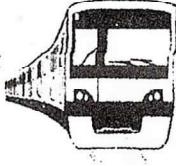
・収支採算性 26年(*注2)

*注2 収支採算性を確保

相模原市・町田市で検討

○唐木田～相模原を第1期整備区間とし先行整備
以降は、第2期整備区間として検討

○第1期、第2期区間の更なる検討の深化化



令和5年度

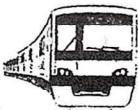
町田小山 小田急多摩線

延伸促進協議会役員

一覧

* 新任

会長	杉山 利昌	(中村)	
副会長	* 小峰 政行 村野 薫 * 細野 進 岡本 松之助 * 坂井 秀吉 田中 卓	(上馬場) (上馬場) (下馬場) (中村) (沼団地) (沼)	一区連合会長 兼上馬場町内会長 (事務局) 下馬場町内会長 沼団地町内会長
監事	田中 敏 氏家 守	(中村) (沼)	兼理事(事務局)
事務局長	佐々木 秀昭	(沼団地)	(事務局)
理事	小峯 祐二 荻原 義正 細野 隆義 関 三郎 * 森田 博 田中 友也	(上馬場) (下馬場) (下馬場) (中村) (中村) (沼団地)	(事務局) 会計(事務局) 中村町内会副会長
幹事	小峰 房雄 林 昭市 高木 明 加藤 一嘉 橋本 守 * 岡本 康之輔 岡本 和巳 岡本 潔 桂川 光明 渡辺 憲夫 阿部 勝雄 臼井 精司 * 内田 弘 * 丸山 緑 内田 弘二 杉山 敏治 岡本 寿美男 田中 秀幸 茨木 庄吾 赤池 智範	(上馬場) (上馬場) (下馬場) (下馬場) (下馬場) (下馬場) (中村) (中村) (中村) (中村) (中村) (中村) (中村) (沼)	
顧問	岡本 芳己 近藤 一夫 杉田 直俊	(中村) (中村) (沼)	沼町内会長
役員合計	39名		



【参考】延伸計画の関係者会議 2019年6月18日付 読賣新聞

S

2019年(令和元年)6月18日(火曜日)

言論

壹

◆ 小田急多摩線の延伸計画



小田急多摩線

部分開業で国補助対象

唐木田→相模原 黒字転換の期間短縮

延伸計画 関係者会議

町田市と相模原市は、小田急多摩線の延伸計画について、小田急電鉄と学識経験者の地元自治体などでつくる関係者会議の調査結果を公表した。唐木田(多摩市)→相模原(相模原市)の部分開業だと黒字に転換するまでの期間が短縮され、国の補助が受けられるとの結果が出た。開業時期は一括整備・部分開業ともに2023年を想定している。

現行の多摩線は、新百合ヶ丘(川崎市)から唐木田までの10・6キロ。延伸は町田市小山田地区に1駅(名称未定)、相模原市に相模原と上溝の2駅を設置するもので、延伸区間は計8キロとなっている。

調査結果によると、延伸区間を一括整備した場合の概算建設費は1,300億円で、黒字に転換するには42年かかる。一方、唐木田→相模原の約5・8キロを先行して開業する場合は、開業時期は2023年を想定しても2023年を想定している。

都市鉄道利便増進事業費の各3分の1を負担し、残りの3分の1を整備主体となる独立行政法人「鉄道建設・運輸施設整備支援機構」または第3セクターが金融機関から借り入れて、線路や駅などを整備する。鉄道事業者は整備費を負担せず、開業後に施設使用料を整備主体に支払って事業を実施する。

□

都市鉄道利便増進事業費の各3分の1を負担し、残りの3分の1を整備主体となる独立行政法人「鉄道建設・運輸施設整備支援機構」または第3セクターが金融機関から借り入れて、線路や駅などを整備する。鉄道事業者は整備費を負担せず、開業後に施設使用料を整備主体に支払って事業を実施する。

月、国土交通省の交通政策審議会による答申で「東京圏の都市鉄道が目指すべき姿を実現する上で意義のあるプロジェクト」の一つとされた。ただ、収支採算性などの課題も指摘され、町田、相模原市は同年8月に関係者会議を設立していた。

両市は15年には地域住民約18万人の署名とともに、両市長の連名で、延伸の早期実現を求める要望書を国交相に提出するなどしている。